



# YMI WORLD

「強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う」

ワイズメンズクラブ国際協会

2026年3月



環境を祝福し、今月は、グリーンプロジェクトに焦点を当てます

インド・ケララ州アルヴァにある YMCA キャンプ センターは、YMI の環境保護基金のおかげでカーボンニュートラル ステータスを達成しました。

# 目次

この出版物の内容は、YMIクラブの献身的な会員および役員の寄稿によるものであり、心から感謝申し上げます。また、外部からの記事やメッセージも随時掲載されることがあります。その場合は、寄稿者の方々に改めて感謝の意を表します。

|                                          | ページ |
|------------------------------------------|-----|
| <b>国際会長メッセージ</b>                         | 1   |
| エドワード・K・W・オン 国際会長                        |     |
| <b>国際本部ニュース</b>                          | 2   |
| ジョース・ヴァルギース 国際書記長                        |     |
| <b>地域奉仕：感動的な行動</b>                       | 4   |
| リー・ヨンハ 地域奉仕国際事業主任                        |     |
| <b>ワイズメンズクラブ国際協会：地球にとっての転換点</b>          | 6   |
| サンドラ・ハミルトン 環境委員会委員長                      |     |
| <b>可能性を加速させる：</b>                        | 8   |
| コソボYMCAがどのようにしてキャンプ・ピエテルシヤンを完全オフグリッド化したか |     |
| <b>インドのグリーンプロジェクト</b>                    | 10  |
| <b>Week4waste：シンプルな行動、目に見える影響</b>        | 12  |
| ウルリック・ラウリドセン デンマーク区、ヨーロッパ地域              |     |
| <b>TOFスポットライト</b>                        |     |
| ナクルYMCA 若い母親と少女のエンパワーメントプロジェクト           | 13  |
| <b>アフリカ地域ニュース</b>                        | 15  |
| ジョウン・マティ アフリカ地域ニュース編集者                   |     |
| <b>アジア太平洋地域ニュース</b>                      | 16  |
| 利根川恵子 アジア太平洋地域ニュース編集者                    |     |
| <b>ヨーロッパ地域ニュース</b>                       | 17  |
| ビルジット・ジェイコブセン ヨーロッパ地域ニュース編集者             |     |
| <b>インド地域ニュース</b>                         | 18  |
| ジョセフ・ヴァルギース インド地域ニュース編集者                 |     |
| <b>韓国地域ニュース</b>                          | 21  |
| チョン・ギョンジュ 韓国地域ニュース編集者                    |     |
| <b>ラテンアメリカ地域ニュース</b>                     | 23  |
| クリスチャン・グリーン ラテンアメリカ地域ニュース編集者             |     |
| <b>米国地域ニュース</b>                          | 24  |
| メラニー・カアイフエ・ヨシダ 米国地域ニュース編集者               |     |
| <b>チェンマイYMCAでiGoの機会</b>                  | 24  |
| <b>国連デー</b>                              | 25  |
| ロイズ・マラセリー 国連プロジェクト委員会メンバー                |     |
| <b>キリスト教強調：女王のメッセージ</b>                  | 26  |
| ヴィリー・モルゴー キリスト教強調国際事業主任                  |     |

## 編集者から

YMI ワールドに関するご意見やアイデアを共有するには、編集長にご連絡ください。

4月は

Week4Wasteとロールバックマラリア  
(RBM) の強調月間です

インパクトのあるストーリー  
を投稿するには、以下をクリ  
ックしてください

締め切り：2026年3月15日

[編集長へ](#)



# 国際会長メッセージ

エドワード・K・W・オン 国際会長／編集長

リーダーおよび会員の皆さま

YMI 年度の最終四半期が近づいており、進捗状況を評価し、目標への取り組みを再確認することが重要です。

## 会員と成長

ミッドイヤーミーティング（国際年央会議）において、会員数の減少が組織にとって継続的な懸念事項であることを認識しました。高齢化や出生率の低下といった課題は、世界中の奉仕クラブに依然として影響を及ぼしており、ワイズメンズクラブ国際協会（YMI）も例外ではありません。しかしながら、最近、新クラブが設立され、会員募集も積極的に行われていることは、前向きな進展と言えるでしょう。情熱と献身的な努力によって、失われた地位を取り戻すことができると確信しています。

「共に、より強く」は私たちの指針であり続けます。

## 戦略計画とイノベーション

バリ島で開催される次期理事サミットは、2026/27年度の戦略策定において重要な役割を果たすでしょう。執行役員は、次期地域会長および次期区理事と協力し、現在の課題に対する斬新な提案と具体的な解決策を策定します。参加者の皆さまには、革新的なアイデアを持ち寄り、サミット全体を通して積極的に参加していただくようお願いいたします。

## 環境の持続可能性

私たちは、戦略2032および国連の持続可能な開発目標（SDGs）に合致する「フォーカス2.4」と「熊本宣言」に、引き続きコミットします。よりクリーンでグリーンな世界を築くため、環境意識の向上、責任ある行動、再生可能エネルギーの支援、そして効果的な廃棄物管理を最優先に取り組んでいきます。

## 国際プログラムへの貢献

来年度に向けて、野心的でありながら達成可能な目標を設定し、達成するには、協調的な取り組みが不可欠です。各地域は、クラブ会員の皆さまの多大なご支援を反映して、YMIの国際プログラムにおいて、地域ごとに最低限の貢献目標を設定するという任務を負っています。これらのプログラムは、TOFプロジェクト支援などを通じて、皆さまの地域活動のリソースとなることにご留意ください。

## 主な取り組み: TOF & RBM

すべての国際プログラムは重要ですが、今年度の残りの期間は「断食のとき（TOF）」と「マラリア撲滅（RBM）」に重点を置きます。これらの取り組みは、多くの国々に大きな利益をもたらしており、皆さまの継続的なご支援が不可欠です。TOFとRBMのための資金調達への特別な取り組みを強く推奨します。割り当てられた目標を達成したリーダー、または前年と比較して貢献度が著しく向上したリーダーには、賞が授与されます。

## 主題: 信念、愛、行動

「信念、愛、行動」という私たちの主題に導かれ、それぞれの信仰とその教えに基づき、愛と慈悲をもって奉仕を続けていきましょう。皆さまの揺るぎない献身に感謝いたします。この最後の四半期を大成功に導くために、共に力を合わせていきましょう。



# 国際本部ニュース

ジョース・ヴァルギース  
国際書記長

ジュネーブが春を迎える準備を進める中、国際本部も同様に新たな活力、思索、そして未来への計画の季節を迎えています。この1ヶ月は、重要な会議、世界各地への訪問、リーダーシップ育成、そして私たちの運動の継続的な拡大など、実り豊かで刺激的な日々でした。

国際年央会議は、エドワード・オン国際会長の議長の下、2月20～21日に開催されました。すべての国際議員および多くの委員会委員長、国際事業主任が出席しました。この会議は、今年上半期の活動を振り返り、今後数か月間の戦略的計画を立てる重要な機会となりました。私は、最初の6か月間のYMIの活動と成果の概要を発表し、主要な成果を強調するとともに、注意が必要ないくつかの課題についても言及しました。国際会計のスヴェンド・エリック・ニールセンは、会計の概要を説明し、YMIの財務状況を明確に示しました。委員会委員長と国際事業主任も、それぞれの分野の最新情報を共有しました。会議のハイライトは、次期国際会長ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィクのプレゼンテーションでした。エルトヴィクは、「ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる」という主題の下、2026/27年度に向けた刺激的なビジョンを共有し、「YMI - 人生を力づける」というスローガンを掲げ、未来に向けた思慮深く前向きな姿勢を示しました。

3月9日から13日までインドネシア・バリ島で開催される国際次期理事サミットの準備は順調に進んでいます。この重要なグローバルリーダーシップイベントには、約70名のリーダーと招待客が集まり、世界中の私たちの運動における連携、戦略、そして親睦を深めることになります。

ドバイ国際大会への登録は引き続き受け付けており、現在早期登録受付中です。各クラブには、歴史的な大会となり、記憶に残る世界的な集いとなることが期待されるこの大会への参加を、会員の皆さまに積極的に呼びかけていただきますようお願いいたします。

2月には、インドへの重要な公式訪問もありました。ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィク次期国際会長、シャナバスカン直前国際会長、私は、ケララ州各地で開催されたYMIとYMCAの一連のイベントに出席しました。訪問中には、新クラブのチャーター式典、アルヴァYMCAキャンプセンターとコッタヤムのYMCA特別学校でのYMI太陽光発電プロジェクトの始動式などが行われました。代表団はまた、エルナクラム・ワイズメンズクラブの75周年記念式典にも参加し、マヴェリカラのTOF職業訓練センター、カルティカパリのワイズメンズビレッジ、チャバラのワイズメンズ高齢者ケア・ホスピスを視察しました。訪問中の感動的な出来事は、ワイズメンズクラブ国際協会の並外れた貢献を称え、元地域会長のイペ・ジェイコブ、C・K・トーマス、K・I・アブラハムに50年の永年勤続賞が授与されたことでした。ケララ州政府がヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィク次期国際会長を州の賓客として迎え、彼の訪問中、公式賓客儀礼サービスを提供したことは特に喜ばしいことです。

もう一つの重要な進展は、チェンナイYMCAがホストしたインド地域の次期理事/次期部長研修でした。2日間にわたり、70名のリーダーがこの重要なリーダーシップ育成プログラムに参加しました。チェンナイYMCAがこの研修プログラムに2年連続で支援を続けてくれたことは、大変光栄です。

3月は、ワイズメンの活動目的の核となる地域奉仕活動(CS)の重点月間です。また、環境活動においても重要な月です。すべてのクラブは、意義のある地域奉仕プロジェクトに積極的に取り組み、優れた活動を6月15日までに専用のオンラインフォームから提出し、CS賞の選考にご協力いただくよう奨励されています。また、環境の持続可能性への明確なコミットメントとして、環境保護基金への献金もお願いいたします。

今年、83の新しいクラブが設立されたことを大変嬉しく思います。さらに、スペイン、アイルランド、フランス、アルメニアへの活動拡大により、私たちの活動拠点は世界86カ国に拡大しました。この着実な成長は、文化やコミュニティを超えた私たちの使命の活力と重要性を反映しています。

ジュネーブに春が訪れるにつれ、私たちは再生が季節的な側面だけでなく、精神的にも組織的にも重要であることを改めて認識させられます。明確なビジョン、献身的なリーダーシップ、そして世界中の献身的な会員たちとともに、ワイズメンズクラブ国際協会は、奉仕、親睦、そして世界的な影響力において成長を続けています。

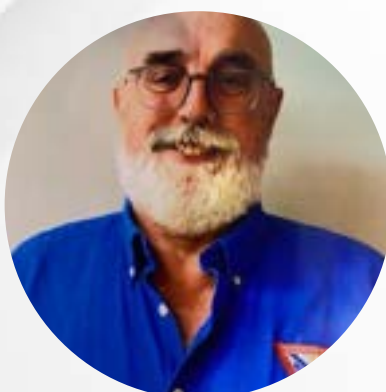


## 立法協議会代表者（国際議員）

2026年7月1日から



**ホアン・チン（フランク）・ツァイ**  
台湾、台湾区  
アジア太平洋地域



**アイヴァン・トンプキンス**  
カナダ、沿海区  
カナダ/カリブ海諸国地域



**エルリング・バークバック**  
デンマーク、デンマーク区  
ヨーロッパ地域



**アヤムトゥ・マリムトゥウ**  
インド、南インド区  
インド地域



**シュリハリ・A・K**  
インド、南西インド区  
インド地域



**ダニエル・エバリー**  
アメリカ合衆国、  
太平洋南西区  
米国地域



# 感動的な行動

クラブのコミュニティ活動の成果を共有しましょう

リー・ヨンハ 地域奉仕国際事業主任

地域社会への貢献と奉仕は YMI クラブの主な目的の 1 つであり、3 月は地域奉仕活動の重点月間です。

私たちは、定期的かつ誠実なボランティア活動と目的のある募金活動を通じて、地域やその外部で前向きで持続可能な変化を生み出すことに尽力してきました。

地域奉仕とは、恵まれない人々への物質的な支援やプロジェクトにとどまらず、私たちの考え方や生き方そのものを包含するものです。私たちは、地域奉仕を通して、貧困救済、環境保護、防災・復興、教育格差の是正、高齢者や社会的弱者のケアなど、様々な形で公共の福祉の向上に貢献しています。

**私たちのコミュニティ内での影響力、思いやりのある取り組みの最近の例をいくつか挙げます。**

- 気候変動に対応したカメルーンでの植樹
- 米国のウォーキングプログラム（病院と協力し、がん協会に寄付）
- インドでの透析機器の寄贈



カナダのフードバンクに寄付



デンマークで家庭用品のリサイクルと再利用に参加



韓国における緊急災害救援および環境改善プログラムの実施

しかし、今こそ私たちの奉仕モデルを現代化し、クラブの目標を再定義する時なのかもしれません。行動への熱意、他者と分かち合う喜び、そして意義のある奉仕活動への積極的な参加を育むことで、地域社会へのポジティブな影響をさらに広げることができるでしょう。

地域社会への奉仕と貢献は、YMIクラブの基本的な目的の一つであり、クラブは、自らの善行を共有することで、模範となる行動を通して他のクラブに刺激を与えます。この奉仕の精神を支え、奨励するため、YMIは毎年、地域社会への奉仕において優れた功績を挙げたクラブに「CS賞」を授与しています。

CS賞に関する以下の情報をお伝えできることを嬉しく思います。クラブの貴重な活動を前面に出し、それにふさわしい評価を得るために、ぜひ応募してください。

## CS賞

CS賞は、2019年の国際議会で初めて導入され、それ以来、コミュニティサービスにおける優れた功績を表彰し、そのような取り組みの継続的な成長と影響を促進するために毎年授与されています。



CS賞の楯

## カテゴリー

2つのカテゴリーがあります:

1. 単独部門 単一のクラブが行う地域奉仕活動
2. 共同部門 部、区、または地域レベルで実施される地域奉仕活動

## 応募手順と締め切り

申請書は、毎年6月15日までに、YMIウェブサイトのCSのページからオンラインで記入して提出する必要があります。

## 選考基準

各CSプロジェクトは、活動の頻度、参加者数、財政的貢献、モニタリングおよび評価のプロセス、持続可能性、地域社会全体への影響、パートナーシップ、広報活動などの要素に基づいて評価されます。

詳しい情報については、[YMI ウェブサイトのCSのページ](#)をご覧ください。

積極的な地域奉仕活動の奨励、ベストプラクティスの強調、クラブ間の共有の促進のため、資料を [koret062@hanmail.net](mailto:koret062@hanmail.net) (CS国際事業主任) までお送りください。



# ワイズメンズクラブ国際協会 地球にとっての転換点

サンドラ・R・ハミルトン 環境委員会委員長

世界は、気候変動との闘いにおいて、決定的な局面を迎えています。科学者たちは現在、各国政府に対し、気温が4°C上昇する可能性に備えるよう強く求めています。これは、生態系、経済、そして脆弱なコミュニティに甚大な悪影響を及ぼすでしょう。過去3年間は記録的な猛暑となり、パリ協定で定められた1.5°Cの閾値を破る寸前まで来ています。

環境危機は、もはや理論的な議論ではなく、今まさに直面している現実です。気温上昇、異常気象、海岸浸食、そして深刻化する食料不安は、すでに各大陸全体で人々の生活と生計を大きく変えつつあります。私たちに問われているのは、もはや変化が必要かどうかではなく、この瞬間の緊急性を認識し、快適な領域から一歩踏み出し、目的を共有し、苦境に立たされた地球を癒すために必要な行動を起こす意志があるかどうかです。

警告が強まる一方で、希望を抱ける確かな理由もあります。現在、80カ国以上が石炭、石油、ガスの段階的廃止に向けた具体的なロードマップを策定しています。そしてまさにワイズメンズクラブ国際協会においても、2025年度後半は、現実的で目に見える行動の時期となりました。

## YMIのコミットメントの実践

ワイズメンズクラブ国際協会（YMI）は、10年以上にわたり、地球環境保護への責任を認識してきました。2010年の横浜宣言は、体系的な環境への取り組みの始まりを示し、その後、正式な環境方針が採択されました。これらのコミットメントは、2025年の熊本宣言によってさらに強化され、戦略2032と国連の持続可能な開発目標（SDGs）に沿った、測定可能で実践的な行動に重点を置いた誓約を新たにしました。

YMIは世界中で目に見える貢献を果たしており、2025年7月から12月までの期間、多くの報告がありました。

## グリーンチームが集結

環境委員会は2025年9月に会合を開き、各エリアのメンバーを集めて進捗状況を確認し、共通の目標を明確にしました。活気に満ちた会合となり、植樹活動のために1,000米ドルという寛大な寄付も集まり、さらに大きな力となりました。カメルーン、ケニア、タイ、インドで現在進行中の森林再生活動と併せて、これらの取り組みは、環境活動を目に見える形で永続的なものへと変えつつあります。

## 太陽エネルギー：コソボからケララまで

YMIは過去5年間、コソボ、タイ、スリランカ、インド、フィリピン、カリブ海諸国における太陽光発電設備の設置を支援し、YMCA施設のエネルギー自立と大幅なコスト削減の実現に貢献してきました。今シーズンは、新たな節目を迎えました。

コソボでは、コソボYMCAからの報告により、キャンプ・ピエテルシャンが2024年にグリーンファンドを確保したことを受け、完全にオフグリッド（訳注）化されたことが確認されました。キャンプは、太陽光発電のみで運営され、二酸化炭素排出量を目に見える形で削減しており、既に周辺地域に恩恵をもたらしています。これは、環境への配慮から始まった決断が、瞬く間に地域社会の財産となることを証明しています。YMCAの最近の成功事例としては、YMIのカーボンオフセット事業の支援を受け、インドのYMCAスクールとYMCAキャンプが完全なカーボンニュートラルを達成したことが挙げられます。

インドのケララ州では、環境委員会は、残りの50%をYMCAと共同でコッタヤム西部ワイズメンズクラブが太陽光発電設備を設置するプロジェクトに充てることを承認しました。また、マヴェリカラYMCAは8.55kWの太陽光発電システムの設置を新たに申請しました。このプロジェクトは、今後何年にもわたってYMCAの運営と地域活動に必要なクリーンで信頼性の高い電力を供給します。

### カリブ海での関与

私は、私の所属する地域で、国連開発計画（UNDP）との協力を通じて、私たちのクラブが沿岸保護の強化、再生可能エネルギーへの移行の加速、持続可能な慣行に関する地域教育の推進に積極的に取り組んでいることを誇りに思います。

同様に重要なのは、今日の私たちの決定を受け継ぐ世代に焦点を当てることです。ジャマイカでは、法学生が気候変動関連法制に積極的に関わるカリキュラムを開発しています。未来の弁護士や政策立案者は、気候変動に関する科学、利害、そして利用可能な法的手段を理解する必要があるからです。環境教育はオプションではなく、私たちの活動の中核を成すものです。

### カーボンオフセットを超えて：あらゆるレベルでの行動

YMIの環境への影響は、従来のカーボンオフセット助成金をはるかに超えています。2020年に開始されたWeek4Wasteプロジェクトは、世界中のクラブを地域の清掃とリサイクル活動に結集させました。これは今日でも、YMIの最も顕著なグローバルインパクトのある取り組みの一つです。これは、有意義な環境活動は、地域レベルから始まり、世界中に波及していくことを実証しています。

2024年に国際大会登録料に最低10米ドルの環境税（グリーン・レヴィ）を導入し、その資金をYMIの環境保護基金に充当することは、持続可能性への私たちのコミットメントの強化を示すもう一つのシグナルです。これらの事例は、私たちのコミットメントが真摯であることを証明しています。しかしながら、地球規模の気候変動問題の大きさは、私たちにさらなる取り組みを求めています。

### 緊急支援の必要性

私たちの方針、宣言、そして高まる勢いにもかかわらず、ビジョンを一貫した行動に移すことは依然として困難です。カーボンオフセットと再生可能エネルギープロジェクトへの資金は減少し続けており、私たちの取り組みの規模と範囲が制限されています。意義のある行動には確実な資金が必要です。クラブがYMIの国際プログラムへの拠出を決定する際には、環境保護基金を含めることが不可欠です。十分な資金がなければ、いかに強力な宣言であっても、その目標達成は困難を極めます。

私たちは転換期にあります。気候危機は勇気と決意、そして協調的な努力を必要としています。私たちの献金が、今日のニーズへの思いやりだけでなく、明日の世界への責任を反映するものとなるよう、共に歩みましょう。約束を目に見える行動へと変え、すべての人々にとってよりクリーンで、より環境に優しく、より持続可能な未来を築くために尽力しましょう。

訳注：オフグリッド＝電力会社の送電網（グリッド）から独立し、太陽光や風力などの再生可能エネルギーを用いて、自宅や施設に必要な電力を自給自足する状態のこと



## 可能性を加速させる： コソボYMCAがどのようにキャンプ・ピエテルシャ ンを完全オフグリッド化したか

コソボのキャンプ・ピエテルシャンは、長年、不安定で不十分な電力供給という、根深い深刻な問題に直面していました。キャンプは、低圧電力網に接続されていましたが、特に数百人の若者、ボランティア、地域住民が施設を利用するピークシーズンには、完全な運営のために高圧電力供給を緊急に必要としていました。

自治体、トルコが運営する国営送電会社KETS、そしてコソボYMCAの間で複数回の協議が行われたにもかかわらず、恒久的な解決策は見出せませんでした。送電線のアップグレードに全責任を負う利害関係者はいませんでした。このアップグレードには推定費用5万ユーロ、3キロメートルに及ぶ高圧線敷設工事が必要でした。

しかし、この挑戦がイノベーションのきっかけとなったのです。

### 持続可能性に向けた戦略的転換

コソボYMCAは、新たな戦略計画の一環として、太陽光発電がキャンプにとって実行可能な解決策であると同時に、環境責任を果たすための長期的な方向性として適切であると既に認識していました。エンジニアたちは、キャンプの既存の低圧送電線と堅牢な太陽光発電設備を組み合わせたハイブリッドシステムの提案書を作成しました。米国YMCAとヨーロッパYMCAの代表者がキャンプ・ピエテルシャンを訪れた際、彼らはこのプロジェクトの緊急性と可能性を認識しました。そして、コソボYMCAが残りの資金を調達するという条件付きで、コミットメントが合意に至りました。



## 共通のビジョンのために国際的なパートナーを結集

コソボYMCAは、長年のパートナーを迅速に動員し、ワイズ・デンマーク区からの支援を確保しました。これにより、プロジェクトが拡張され、ディーゼル発電機がバックアップ電源として組み込まれるようになり、過酷な状況でも信頼性が確保されました。

以下の追加の融資が続きました。

- ジャコヴァ市
- ワイズメンズクラブ国際協会の環境保護基金
- コソボYMCAのデイキャンププログラムからの収入

この混合資金モデルは、国際協力の強さと、青少年育成と気候に配慮したプログラムの両方に対する共通の取り組みを実証しました。



## 設計図から現実へ

建設が始まり、3ヶ月間、技術的な問題解決と肉体労働に精力的に取り組みました。当初は50/50のハイブリッドモデルとして計画されていましたが、エンジニアリング段階で進化を遂げました。キャンプの立地条件と電力系統の不安定さを考慮し、専門家は、キャンプの電力供給を100%オフグリッドにすることで、より効率的に電力を供給できると判断しました。この変革は2025年9月に完了し、システムは完全稼働を開始しました。

## キャンプ・ピエテルシヤンの新たな章

設置以来、コソボYMCAは、2024年の総会を含む複数の主要イベントをこの新しいエネルギーシステムのみで開催してきました。総会は、クリーンで独立した再生可能エネルギーで運営され、成功を収めました。キャンプ・ピエテルシヤンは、バルカン半島全域、そしてより広範なYMCA運動全体にとって、持続可能な青少年育成インフラのモデルとなっています。当初は苛立たしい電力問題でしたが、今ではイノベーション、パートナーシップ、そしてレジリエンス（回復力）の感動的な物語へと発展しています。



# インドの グリーンプロジェクト

## 成功を祝う：インドYMCA カーボンニュートラルを達成

インドYMCA同盟の取り組みであるアルウェイYMCAプロジェクトの「スラヤ・キラン-オルジャ・タラン」太陽光発電プロジェクトは、2023年にカーボンオフセット資金の対象として承認されました。このプロジェクトは、年間を通じてかなりの電力消費を必要とする会議室、寮、ホステル施設、トレーニングスペースを運営するケララ州アルヴァのYMCAキャンプセンターの電力消費量の増加に対処するために開発されました。

承認された計画には、グリッド電力への依存度を低減し、運用コストを削減し、温室効果ガス排出量を削減するための25kW太陽光発電システムの設置が含まれていました。資金調達と技術準備の完了後、2024年3月に工事が開始されました。プロジェクト総費用は、アルヴァYMCAプロジェクトとYMIを通じて受領した8,000スイスフランで分担されました。



太陽光発電システムは現在、完全に設置され稼働しており、センターの月々の電気代を大幅に削減するとともに、長期的なエネルギーの持続可能性を強化しています。このプロジェクトは、2026年2月初旬、ヨハン・V・エルトヴィック次期国際会長のインド訪問中に正式に開所されました。エルトヴィック次期国際会長は、YMCA同盟会長のヴィンセント・ジョージ、A・シャナバスカン直前国際会長、ジョース・ヴァルギース国際書記長、ジジ・ヴェンダラパリープロジェクト委員長、そしてJ・B・コシー判事と共に、キャンプのカーボンニュートラル移行を祝う式典に出席しました。

アルウェイキャンププロジェクトの成功は、YMIの環境への取り組みを強調するものであり、再生可能エネルギーの取り組みが環境と運用の両方のメリットをもたらす方法の具体的な例です。



インド、ケララ州アルヴァのYMCAキャンプセンターのソーラーパネル



## ヴェラヴム・ヴェリチャヴム： 持続可能性への道を照らす

インドの他の「環境」関連ニュースとして、コッタヤムウエスト・ワイズメンズクラブが「ヴェラヴム・ヴェリチャヴム（水と光）」プロジェクトの最新情報を発表しました。これは、コッタヤムYMCAが運営する障がい児学校のボディニラヤムに太陽光発電と浄水設備を設置するプロジェクトです。今年、このプロジェクトは、YMIのカーボンオフセット・プログラムを通じて6,500スイスフランの資金提供を受けました。

2025年10月に最初の分割払い金を受領後、準備作業が開始されました。これには、YMCAとの協議や、資格を有する太陽光発電コンサルタントの雇用が含まれます。太陽光発電所の見積もりを依頼し、コンサルタントの指導の下で評価を行いました。プロジェクト委員会は、慎重な検討を経て、ベンダーを選定し、契約条件を最終決定しました。

ケララ州電力委員会を通じて、売主およびYMCA関係者と協議の上、恒久的な電力接続と変圧器のアップグレードが手配され、敷地の準備が完了しました。寄贈者、受益者、売主の間で、5年間の無償メンテナンスを含む正式な契約が2026年1月10日に締結されました。



# Week4Waste

## シンプルな行動、目に見える影響

ウルリック・ラウリドセン元国際会長、デンマーク区・ヨーロッパ地域



良い変化をもたらすには、必ずしも複雑なプロジェクトは必要ありません。時に最も効果的なサービスは、目に見えて実用的で、誰でも簡単に参加できるようなサービスです。Week4Waste (W4W) はまさにそれを目指しています。

アイデアはシンプルです。クラブは、地域に出てゴミを拾います。道路脇、公園、川岸、遊歩道、公共の緑地など、すべてが少しの手入れで恩恵を受け、すぐに効果が現れます。

メンバーが協力して活動に参加すると、特にYMIブランドの視認性の高いベストやクラブのアイデンティティを示すものを着用することで、ゴミ拾い以上の効果が得られます。人々の目に留まり、地域社会で積極的に活動し、模範を示すクラブメンバーの存在が、人々に伝わります。W4Wの清掃プロジェクトは、ウォーキング、運動、そして屋外での時間を明確な目的を持って組み合わせた、穏やかで健康的な活動でもあります。

デンマークのヴァイレでは、クラブのメンバーが毎年4月に市が主催する清掃キャンペーンに参加しています。非常に好意的な反応があり、認知度も非常に高くなっています。このような活動を公共の場で継続的に行うことで、私たちの運動への好意と認知度がどれほど高まるかは、言葉では言い表せません。

W4Wアクティビティの企画は難しくありません。ルートを決め、集合場所を決め、手袋とバッグを用意し、少人数のグループに分かれてエリアを巡回しましょう。公園、近所の通り、川岸、学校の通学路などは、出発点として最適な場所です。

クラブ活動の写真を共有することで、他のクラブに刺激を与え、私たちの共同活動のより広範な影響を示すことができます。また、Facebookグループ「Week4Waste」でもアイデアや事例を見つけることができます。

私たちの地域社会をより清潔に、より緑豊かに、より良く管理していきましょう。そして、それを人々の目に見える形で実現させましょう。



Week4Waste  
チャレンジ！

あなたの地元のWeek4Waste活動を共有してください  
Facebookページ：[Week4Waste](#)



台湾



デンマーク



英国



日本



## TOFプロジェクトスポットライト ナクルYMCA 若い母親と少女の エンパワーメントプロジェクト

YMIワールド2月号で特集されているように、新たに導入されたTOFキャンペーンでは、2026/27年度の申請プロジェクトを紹介しています。これらのプロジェクトは、独自性があり、実行可能で、測定可能なインパクトを生み出すように設計された事業です。これらのスポットライトは募金活動ではなく、TOFのリソースがYMIの奉仕とグローバルな親睦という価値観をどのように実現しているかを示すものです。

今回、紹介するプロジェクトは、ケニアのナクルYMCA美容・美容セラピー研修プログラムです。ナクルYMCAリソース・職業訓練センターが開始したこのプログラムは、ボンデニ、キブンビニ、マチャンガ、シャウリ・ヤコ、オジュカ、カロレニ、マニヤニといった非公式居住地に住む若い母親や脆弱な立場にある少女たちが直面する喫緊の課題に取り組んでいます。失業率の上昇、10代の妊娠、薬物乱用、犯罪の増加により、多くの若い女性が貧困と依存の悪循環に陥っています。ナクルYMCAは、彼女たちの尊厳を回復し、持続可能な生活への扉を開くために、専門的な美容・美容セラピー研修、ライフスキル、メンターシップ、そして精神的なサポートを提供することで、エンパワーメントへの道を切り開きました。

このプログラムは、開始以来、参加者の人生に変革をもたらし、市場価値のあるスキルを身につけ、自尊心を高め、レジリエンス（回復力）を育んできました。カウンセリング、レクリエーションを中心とした健康活動、起業家育成トレーニングなどを含む包括的なサポートにより、受益者はスキルを身につけ、自信を持ち、地域社会に貢献する準備を整えています。この取り組みは、現在、年間少なくとも100人の若い母親を支援することを目標としており、初期の成果として、雇用、収入、社会復帰において目に見える改善が見られました。

3月8日の国際女性デーを記念して発表されたこのプロジェクトは、女性と女兒の尊厳、スキル、可能性への戦略的投資が、家族、コミュニティ、そして社会全体に永続的な利益をもたらすことを示しています。



## インパクトスナップショット

- 毎年100人の若い母親が美容と美容療法の研修を受講
- 参加者の雇用と収入の増加
- カウンセリング、ライフスキル、健康活動を通じた総合的なサポート
- 地域社会に積極的に貢献する、力強く自立した若い女性たち

## ナクルYMCA 若い母親と少女のエンパワメントプロジェクト

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 申請者          | ケニアYMCA - ナクルランチ                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| プロジェクト名、場所   | ナクルYMCA 若い母親と少女のエンパワメントプロジェクト、ケニア・ナイロビ                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 過去のTOF助成金    | <ul style="list-style-type: none"> <li>ケニアYMCA同盟は、長年にわたり複数のプロジェクトを成功裏に実施しており、最後に助成金を受けたのは2013年です。</li> <li>ナクルランチは、これまでTOF資金を受け取ったことはありません。</li> </ul>                                                                                                                                                   |
| 概要           | TOFの資金は、椅子、ワークステーション、美容器具、練習用ダミーなどのサロンに不可欠な設備やトレーニング資材の購入、および授業料の支援に使用されます。                                                                                                                                                                                                                              |
| プロジェクトの背景    | ナクルYMCAリソース・職業訓練センターは、ナクルの非公式居住地に住む若い母親と少女たちが直面する、失業、10代の妊娠、薬物乱用、犯罪といった社会的・経済的課題に対処するために設立されました。YMCAの美容師・美容療法士養成プログラムは、脆弱な立場にある若い母親たちに、職業スキル、生活スキル、そして精神的なサポートを提供し、技術訓練に加え、メンターシップ、カウンセリング、健康増進活動を組み合わせることで、回復力と自信を育みます。就労能力と社会復帰における目に見える成果を高く評価し、YMCAは現在、プログラムを拡大し、年間少なくとも100人の若い母親に研修を提供することを目指しています。 |
| プロジェクト活動     | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業料、学習教材、設備の整ったトレーニング施設へのアクセスの提供</li> <li>経験豊富なインストラクターの実践的なヘアスタイリングと美容療法のトレーニングの提供</li> <li>カウンセリング、ライフスキル、健康活動を統合して、回復力と自信を育成</li> <li>自営業と収入創出を促進するために起業家支援の提供</li> <li>進捗、結果、全体的な心理社会的改善を監視および評価</li> </ul>                                                   |
| 直接、間接受益者数    | 75、30                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| プロジェクト期間     | 6～12ヶ月                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| プロジェクトの持続可能性 | 若い母親たちに職業スキル、生活スキル、そして起業家精神のトレーニングを提供することで、自立を促し依存度を軽減し、長期的な効果と持続可能性を確保しています。地元企業とのパートナーシップと継続的なメンターシップにより、雇用と収入創出への道筋が開かれます。また、定期的なモニタリング、評価、そして資源の再投資により、プログラムの継続的な拡大と質の高い成果の維持が保証されます。この統合的なアプローチは、参加者と地域社会全体の経済的および心理社会的持続可能性の両方を支援します。                                                              |
| 焦点SDG        | 1. 貧困をなくす                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| ボランティア       | 起業家、職業専門家、サロンマネージャー                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| TOFリクエスト     | 7,447スイスフラン                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| プロジェクト総予算    | 11,992スイスフラン                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 確保済みの資金      | 4,545スイスフラン                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

# アフリカ地域ニュース

ジョウン・マティ アフリカ地域ニュース編集者

## トレーニング、チームビルディング、そして愛の散歩

2026年1月24日、ナイロビ・メトロYサービスクラブのメンバーがアフロサヤリ・テーマパークに集まり、研修とチームビルディング活動を行いました。スパロウ・マラバ元理事、ピーター・マラバ直前クラブ会長、キャロライン・マギナクラブ会計、マーサ・ワングニユクラブ会長といったクラブリーダーのファシリテーターによるセッションでは、奉仕は、神の業であると強調し、運動の柱である4つのT（時間、宝物、才能、寛容）を強調しました。ワイズユース直前クラブ会長メアリー・シミニュによるチームビルディング演習と、エヴェリン・サミタによる祈りの時間は、メンバー間の学び、友情、そして積極的な参加を育みました。その後、クラブは2026年2月14日のバレンタインデーを記念し、「愛のウォーク」と名付けられた15キロメートルのチャリティウォークを行いました。クラブメンバーと地域社会全体が協力し、精神疾患や自閉症の子どもたちを支援するグレイシャス・ステップス特別学校への募金活動を行いました。集まった資金は、同校の新しい厨房の建設と、個別教育・療育に重点を置いたプログラムに充てられます。



## 若者の心を育む

1月24日、ケニア西部のカカメガ・ワイズユースクラブは、ムココ村でエリシャ・オンゴヤ直前クラブ会長の指導による親睦イベントを開催しました。メンバーは目標設定、時間管理、キャリアと人生に対する新たな視点について話し合い、若い頃の自分に送るアドバイスについても考えました。セッションは、活発な議論で締めくくられ、若者たちは、ここで得た洞察を日常生活に活かし、定期的に自分の進歩を振り返るよう促されました。



## 高齢者のエンパワーメント

アルーシャ・ワイズメンクラブのメンバーは、アルーシャ・ワイズユースクラブと共に、高齢者のエンパワーメントと励ましを目的とした活動の一環として、2月8日にサンシャイン老人ホームを訪問しました。訪問中、チームは、入居者と時を過ごし、祈りを共にし、励ましの言葉をかけながら、寄付された家庭用品や食料品を届けました。



## ケニア部部大会

2026年ケニア部部大会およびユースコンボケーションは、2月20日～21日に湖畔の都市キスムで開催されました。エスター・ムバブ部長が率いるYMIクラブ会員、ワイズユース、そして来賓が、奉仕、友情、そして親睦を称えました。部大会の正式な議事運営に加え、参加者は再会し、活力を取り戻し、忘れられない思い出を作る機会を楽しみました。リラックスしたプログラムの中で、参加者は、キスムの街を散策し、ビクトリア湖でボートに乗り、インパラ国立公園を訪れました。大会では、ケニアにおける運動の認知度向上、新クラブ設立の促進、コンプライアンス強化、そして戦略2032に沿った取り組みの実施を決議しました。クラブ会員のジェニファー・キムリが次期部長に就任し、数名の新会員が入会しました。次回の部大会は、2027年2月に沿岸都市モンバサで開催されます。



# アジア太平洋地域ニュース

利根川恵子 アジア太平洋地域ニュース編集者

## インド体験交流プログラム



東日本区の異文化交流プログラムは、若者に異国を体験し、視野を広げ、世界の多様性に触れる機会を提供します。

インド・ハイデラバードのワイズメンズクラブの惜しめない支援のおかげで、7人の学生と元BF文化代表の為我井輝忠さんが2月19日に成田空港からインドに向けて出発し、川越クラブのメンバーが彼らを見送りました。

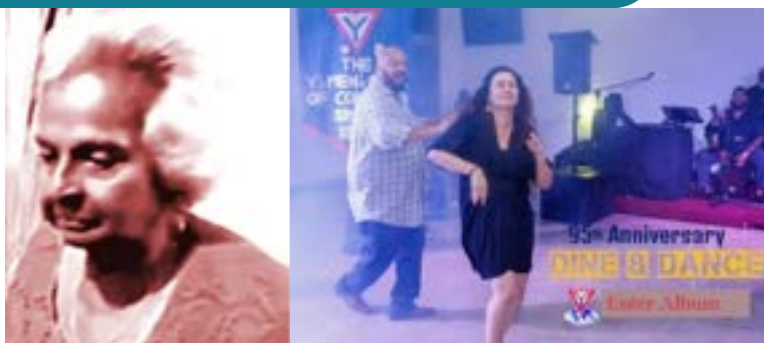
## ラオスYMCAプロジェクト

京都パレスワイズメンズクラブ会員であり、ラオス名誉領事でもある大野嘉宏さんは、アジアで数少ないYMCAの無い国の一つ、ラオスにYMCAを設立するプロジェクトを立ち上げました。同クラブ創立50周年記念事業を通じて1,000万円の資金が集まり、このプロジェクトを運営する「ラオスにYMCAを! 有志の会」が設立されました。1月16日に京都で開催された報告会には70名以上が参加し、将来的なラオスにおけるワイズメンズクラブ設立への支援も計画されています。



チェンマイ在住の元YMI国際書記長の西村隆夫さんと東京YMCA国際ホテル専門学校の小幡貴裕宏校長の支援を受け、東京YMCA国際ホテル専門学校の分校としてホテル専門学校を設立する計画が策定されました。これは、国の規制によりYMCAを直接設立することが困難なためです。ラオス政府もこの構想に感銘を受け、観光立国を目指す上で意義深いプロジェクトとして、ラオス大学内に分校を設置することを承認しました。

## ワイズメンズクラブ95周年を祝う



シルビア・ペレラさん

2026年1月10日、コロンボ・ワイズメンズクラブは創立95周年を迎えました。スリランカ初のクラブとして設立されたこのクラブのチャーターは、インド・スリランカ区の設立につながりました。現在、アジアで3番目に古くから活動しているクラブとなっています。1973年には、コロンボ・ワイズメンズクラブは、アジアで初めて女性の入会を認め、シルビア・ペレラさんが初の女性会員となりました。

## 第8回メーカー運河フラワーフェスティバル2026

チェンマイワイズメンズクラブは、チェンマイYMCA、そしてチェンマイの他の地元団体と共同で、第8回メーカー運河フラワーフェスティバル2026を開催します。フェスティバルは2026年2月27日から3月1日まで開催されます。世界中のYMIクラブ会員の皆さま、ぜひご参加ください!





## TOFイブニング&オークション

グーデンオーエン・トーリング・ウルドゥム・ワイズメンズクラブは先日、オープンサンドイッチに続いて手作りケーキのオークションを開催し、TOFの夕べを開催しました。会員たちは活発な入札に興じ、友好的な競争を楽しみました。集まった約4,000デンマーククローネは、地域のTOFプロジェクト支援に充てられます。

## 全国ゴミ収集キャンペーンへの取り組み



環境保護へのコミットメントと責任を継続するため、デンマーク区は、デンマーク自然保護協会が4月第3週に開催する2026年全国ゴミ収集キャンペーンに、各クラブが積極的に参加するよう呼びかけました。非常に意義深い活動を支援するだけでなく、参加はYMIの活動を紹介し、潜在的な新規会員を獲得する貴重な機会にもなります。クラブは、自治体から機材を借りたり、視認性の高いベスト（できればYMIのロゴ入りのもの）を着用したり、学校、ボーイスカウト、YMCA/YWCAなどのパートナーと連携したりすることで、活動の効果を最大化することが推奨されます。

## 新しいIBCクラブ関係

アルバニアのイーグル・ワイズメン&ウィメンズクラブは、昨年設立され、オールボー・ブドルフィ・ワイズメンズクラブと友好関係を結びました。1月15日に国際兄弟クラブの証明書が調印され、交換プログラムが合意されました。偶数年にはティラナから3名、奇数年にはオールボーから3名がティラナを訪問します。このパートナーシップは、両クラブにとって国際協力の新たな章を刻むものです。



# インド地域ニュース

ジョセフ・ヴァルギース インド地域ニュース編集者



ワイズメンズクラブ国際協会インド地域の次期理事、次期部長の研修が、チェンナイのマドラスYMCAで開催されました。次期地域ディレクターおよび次期地区ガバナーは、彼/彼女らは、これからのリーダーシップと奉仕の年に向けて準備とオリエンテーションを受けました。この2日間の研修は、マドラスYMCAがホストしました。

## 中央トラヴァンコール区



女性のエンパワメントと生活向上を促進するために裁縫ユニットと職業訓練センターを設立するマヴェリカラ・ロイヤルズ・ワイズメンズクラブの2024年TOFプロジェクトが、ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィック次期国際会長と他のリーダーたちの訪問を受け、賞賛されました。

## 中東区

中東区における「ホームレスのための家－ワイズメンズ・ビレッジ」プロジェクトは、困窮する家族に住居と希望を提供しています。当初は、5軒の住宅建設を計画していましたが、現在は、設備の整った7軒の住宅と、未亡人のためのコミュニティービルディングを建設するに至っています。これは、タイム・オブ・ファスト（TOF）プログラムの支援によるものです。建設は、着実に進んでおり、このプロジェクトは2025/26年度区プロジェクトとして採択され、恵まれない家族に安心と新たな未来を提供しています。



## 中西インド区



YMCAアルウェイ・キャンプセンターは、2026年2月6日に太陽光発電プロジェクトの開所式を行い、キャンパスのカーボンニュートラル達成という大きな節目を迎えました。式典は、ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィック次期国際会長とヴィンセント・ジョージの指揮の下、ジョース・ヴァルギース国際書記長、A・シャナヴァスカン直前国際会長、バブ・ジョージ地域会長をはじめとするリーダーたちが出席して行われました。このプロジェクトは、カーボンオフセット資金のもう一つの受益者であり、YMCAとYMI運動における環境に配慮した取り組みのベンチマークとなるものです。

トリプニトゥラのヒルパレス・ワイズメンズクラブは、奉仕活動の一環として、経済的に困窮している家族のために住宅を建設しました。これは、レジ・サイモンクラブ会長の力強いリーダーシップと、この意義深い取り組みを実現させたクラブ会員の献身的な努力によるものです。鍵は、ヴァルギース・ウーメン部長から引き渡されました。



エルナクラム・ワイズメンズクラブ創立75周年を記念する祝賀会は、ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィック次期国際会長とデヴァン・ラマチャンドランケララ高等裁判所判事によって開会され、インド地域で最も歴史あるクラブの一つとして表彰されました。

エルナクラム・ワイズメンズクラブは、創立75周年記念の一環として、マラドゥのPSミッション病院に透析装置2台を寄贈しました。装置は、ヴィンセント・ジョージインドYMCA同盟会長とのサントシュ・トーマス・カナダンクラブ会長の立ち会いのもと、ミジュ・ホセ・ネティカダン部長からクンジュモン・セバスチャン医師に正式に引き渡されました。



## 南インド区



サティヤマンガラム・シェローズ・ワイズウィメンズ・クラブは、校長、教師、ロータリークラブ会員、シェローズ会員の支援を受けて、コマラパラヤムのパンチャーヤット・ユニオン中学校の生徒84名に食事を提供しました。

## 南中央インド区

バンガロール・カントンメント・ワイズメンズクラブのラジェシュ・ネール会長のリーダーシップの下、同クラブは、グッビのエア人道支援ハウスに支援を広げ、住民のために米を寄付しました。





この区は、アリーナ・アレックス会長とそのキャビネットのリーダーシップの下、バンガロール・コスモポリタン・ユース・ワイサービスクラブを歓迎しました。

## 南西インド区

チャバラ・ワイズメンズクラブは、ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィク次期国際会長、A・シャナヴァスカン直前国際会長、ジョース・ヴァルギース国際書記長の出席のもと、TOFプロジェクト25-09「高齢者・ホスピスケア」の発足式を行いました。このプロジェクトでは、パンマナ・スンドレサンとアルバート・F・デクルーズの調整の下、5つのパンチャーヤット（地方議会）の100の地区において、高齢者および寝たきりの患者への緩和ケアを提供します。



コティヤム・ワイズメンズクラブによる「ホームレスのための家」プロジェクトは、新しい家の完成を祝い、ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィク次期国際会長、ジョース・ヴァルギース国際書記長、A・シャナバスカン直前国際会長、ジョセフ・ヴァルギース地域書記、シブ・マノハル部長、その他の指導者らが出席した式典で受益者に鍵を手渡しました。

## 西インド区

ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィク次期国際会長は、V・S・ラダクリシュナン次々期国際会長とジョース・ヴァルギース国際書記長と共に、YMIとYMCAの指導者らと面談し、両団体の歴史的なパートナーシップと奉仕と地域開発への共通のコミットメントを強化しました。訪問中にヨハン次期国際会長は、新たに設立されたグルヴァユル・ワイズメンズクラブの活発な活動も視察し、この地域で最も古いクラブであるクンナムクラム・ワイズメンズクラブのメンバーとも面談しました。



## 次期クラブ会長トレーナー研修（TOT）を実施



韓国地域、パク・チャサン地域会長のリーダーシップの下、1月23日から24日にかけて、キムへのカン・グムウォン記念ボンハ研修センターで、次期クラブ会長研究所初のトレーナー研修（TOT）を開催しました。2日間のプログラムには53名が参加し、講義、国際本部とのZoomセッション、TOTフォーラムなどが行われました。韓国地域研修センター所長のキム・ムンシクと元地域会長ハン・イルウクによる歓迎の挨拶に続き、エリア会計のチョン・ドクユンがインタラクティブな実践セッションを主導し、議論と問題解決を通してリーダーシップ、民主的な意思決定、そしてグローバルな視点を育みました。

出席者には、エドワード・オン国際会長、ジェイコブ・クリステンセン次期クラブ会長研究所トレーニングディレクター、ジョース・ヴァルギース国際書記長、パク・チャサン地域会長の署名入りの証明書が授与されました。

## 韓国 プルイルギョン区

若者のための実践的な金融教育

ブサンワイズユースクラブのメンバーは、韓国投資証券との貴重なセッションを楽しみ、日常生活に欠かせない実践的な経験と実用的な金融知識を習得しました。



## 韓国全北区

ボランティアが生活必需品の配布を支援

今年初めから、全北全州部（チェ・ヨンソン部長）の8つのクラブは、資源リサイクルと文化活動を通じて国内外の支援プロジェクトを支援する「ビューティフル・ストア」で積極的にボランティア活動を行っています。クラブのメンバーは、119名の学生ボランティアと共に、マイナス7℃の悪天候の中、市内の困窮家庭に物資を届けました。



全州プンニョン&全州ヘンボククラブ



全州ソルネクラブ

## 全州のクラブが高齢者と分かち合う

1月、全州市のクラブは、伝統的なジャージャー麺の昼食で地元の高齢者に温かさとコミュニティ精神をもたらしました。1月20日、全州プンニョンクラブ（キム・ギョンモ会長）は2026年最初のボランティア活動を開始しました。マイナス9℃という厳しい寒さにもかかわらず、約400人の高齢者に食事を提供したこの活動は、例年を上回る参加者数となりました。プンニョンが設立した全州ヘンボククラブのメンバーも参加し、心温まる新年のスタートとなりました。翌日、全州ソルネクラブは昼食会を開催しました。例年より寒い天候にもかかわらず、予想を上回る100人を超える参加者が集まり、活気に満ちた楽しいコミュニティの集まりとなりました。

## 地域における若者支援

1月24日、全州ロイヤルクラブは、チナン市にある発達障害のある若者のためのデイケア施設「チナンボデウムセンター」に物資を寄付した。



## 韓国大邱 慶北区

聴覚障害のある学生に新しい世界を開く

2月1日から5日まで、テグオメガクラブ（チョウ・オヒュンクラブ会長）の会員24名がフィリピンの聾者のための聖書学院（BID）を訪問し、約1万4千ドル相当の補聴器、ノートパソコン、タブレット、テレビ、洗濯機を寄付し、IT研修室の設置を行いました。チョウ会長は、生徒たちが初めて耳が聞こえるようになる様子と、その家族にもたらされた喜びに深く感動し、国内外で実践的な支援とボランティア活動を継続することを誓いました。



## 韓国済州区

### 餅スープをシェアして共に前進

1月31日、チェジュドンヘンクラブ（パク・ヨンドク会長）は済州市のヨンラク社会福祉センターで心温まる新年会を開催しました。クラブ会員とその配偶者は早くから準備を始め、地元の高齢者約200名に伝統的な餅スープと豚肉料理を振る舞いました。区理事をはじめとする区役員も厨房に加わり、配給を手伝いました。この行事は、26歳のボランティアがクラブの新会員として加わったことで、さらに特別なものとなりました。



## 韓国ソウル区



### 正しい音を出す

ソウルワイズs合唱クラブは、音楽家であり、献身的なワイズメンボランティアでもあるイム・チャンベクラブ会長が率いており、歌と楽器演奏への情熱を共有する会員が集まっています。イム会長は、長年にわたり、北朝鮮の若者向けに音楽教室を開催し、地域奉仕活動と音楽の喜びを融合させてきました。クラブは最近、視覚障害のあるプロの音楽家4名と視覚障害のない会員4名を迎え入れ、現在は、会員全員で音楽活動を中心とした月例会を開催しています。

### TOF重点月間を認識する

2月、ソウル区（チェ・インソン区理事）は、TOF重点月間を記念して、年次TOF会議を開催しました。区レベルで行われたこの会議では、ワイズメンの国際精神を育み、会員が他者の苦しみに共感し、共に困難を分かち合い、国際的な救援活動に参加するよう促すことに重点が置られました。



# ラテンアメリカ地域ニュース

クリスチャン・グリーン ラテンアメリカ地域ニュース編集者



南米初のワイズメンズクラブであるバルパライソ・ワイズメンズクラブの90周年を記念するハイブリッド・ミーティングが開催されました。バルパライソ・ワイズメンズクラブは1935年にアグスティン・ターナーによって設立されました。クラブは今日も活発に活動を始め、特に若いリーダーの育成に力を入れています。また、バルパライソYMCAとの緊密な連携により、地域社会での共同活動やジョージ・ウィリアムズスクールの支援を行っています。



精神的な健康と健康的な食事に重点を置いた、高齢者向けのウェルビーイングプログラムの収穫。



ジョージ・ウィリアムズスクールの生徒への聖書の配布



ジョージ・ウィリアムズスクールの代表者への商品の寄贈



チリ部部長のクリスチャン・グリーンが主導する研修会では、部内のクラブの会員と統制が強化され、アントファガスタ、イキケ、サンティアゴ、ビニャ・デル・マール、バルパライソの各クラブが参加しました。



2025年11月、オランダ出身のBF代表、マーティン・ヴォスジャンがブラジルとチリを訪問しました。チリでは、サンティアゴ、ビニャ・デル・マール、バルパライソの各クラブが彼を温かく迎え、会員、ボランティア、そして若いリーダーたちと時間を過ごしました。

この訪問は、クラブの理念や取り組みを共有し、地域の実情を学び、パートナーシップを強化し、関係を育み、若者にクラブのリーダーシップを発揮する力を与える貴重な機会となりました。



# 米国地域ニュース

メラニー・カアイフエ・ヨシダ 米国地域ニュース編集者



## クラブ100周年を祝う

ミシガン州マスキーゴンYサービスクラブは、2026年1月21日に、1926年の設立から創立100周年を迎えました。このクラブは、ポール・ウィリアム・アレキサンダー判事が設立したトレード・セントラル・クラブによって設立されたグランドラピッズYサービスクラブがスポンサークラブでした。ジョセフ・カンジャマラ米国地域会長は、2025年12月にマスキーゴンを訪れ、モナショアーズ・ボートイング・クラブで開催された100周年記念晩餐会で、共同会長のシャロン・ロングとバーバラ・マクファデンに記念盾を贈呈しました。

このイベントでは、創立会員のフランシス・ビードンや、67年間会員である101歳のバリル・コルバーンを含む、ゴールデンブック会員を称える式典が行われました。出席した歴代会長全員に表彰状とクラブ設立年を示すミシガン州の地図のピンが贈られました。

続いて、2026年1月22日には、記念昼食会が開催され、歴史的なプレゼンテーションやインタビューが行われました。参加できなかった米国地域のリーダーのためにZoomアクセスも用意されました。クラブは、ポール・ウィリアム・アレキサンダーのミッションに沿った100年間の奉仕を誇りを持って祝しました。



## iGoの機会 チェンマイYMCA

応募受付中です！

地域奉仕、青少年プログラム、国際協力の実践的な経験を積むことができます。

こちらをクリックして応募してください



タイ・チェンマイ

変化をもたらしながら成長するチャンスをつかむ  
— 他者に奉仕し、自分自身に力を与えましょう。

YMCA、YMIクラブ（ユースおよびワイズメネットを含む）に所属する18～29歳の方は、2026年3月31日まで応募できます。

### 参加する理由は？

- **参加:** 新しい文化や言語を体験し、視野を広げ、知識豊富な積極的な国際人になりましょう。
- **つながり:** 新しい人々と出会い、生涯にわたる友情を育み、職業的および社会的ネットワークを強化しましょう。
- **構築:** 仕事と生活のスキルを身につけて履歴書を充実させ、世界中の雇用主にとってより魅力的な候補者になりましょう。
- **エンパワーメント:** 自信、リーダーシップスキル、そしてより良い世界のために行動を起こす能力を養いましょう。



# 国連デー

国連プロジェクト委員会委員のロイス・マラセリーが特定し、要約した3月の国連主要記念日



ロイス・マラセリー  
国連プロジェクト委員会メンバー

## 差別ゼロの日

外見、出身地、愛する人に関係なく、誰もが尊厳を持って充実した生産的な生活を送る権利を促進します。

3月1日

## 世界野生生物の日

世界中の野生動植物を讃えるとともに、野生生物犯罪に対する戦いを強化する緊急の必要性に対する意識を高めます。

3月3日

## 国際女性デー

女性の社会的、経済的、文化的、政治的な功績を称え、男女平等を訴えます。

3月8日

## 国際幸福デー

世界中の人々の生活における普遍的な目標および願望としての幸福と健康の重要性を認識します。

3月20日

## 国際森林デー

現在および将来の世代の利益のために、あらゆる種類の森林と森林外の樹木の重要性についての認識を高めます。

3月21日

## 世界ダウン症の日

ダウン症候群に関する一般の認識を高め、この症状を持つ人々の権利、社会参加、幸福を擁護することを目的としています。

3月21日

## 世界水の日

淡水の重要性に対する意識を高め、水資源の持続可能な管理を推進します。

3月22日

## 国際ゼロ・ウェイスト・デー

持続可能な消費と生産のパターンを促進し、循環型社会への移行をサポートします。

3月30日

このセクションでは、YMIの価値観と使命に最も深く共鳴する、国連の主要な記念日をいくつかご紹介します。国連記念日の全リストと詳細については、[国連公式カレンダー](#)をご覧ください。

# 女王のメッセージ

ヴィリー・モルゴー キリスト教強調国際事業主任



デンマーク女王マルグレーテ2世は、1990年に50歳を迎えた際、インタビューの中で信仰との関係の変化について振り返りました。彼女は、とりわけ、宗教が全く新しい形で生きた現実となり、神への信仰が以前の理論的な信仰を超えた深みを持つようになったと述べました。彼女は、宗教と個人の信仰を結びつけ、真の信仰生活が何を意味するのかを理解することについて語りました。神への信仰は、雨や太陽のように自分にとって現実的で自然なものだと述べました。

女王は、イエスとの関係について、イエスは神が人類に、神が私たちと共に私たちの中にいることを示してくださる象徴であると指摘しました。そして、神がイエスを通してこの世に来られたことにより、人々は孤独ではないという確信を得たと説明しました。

彼女は、イエスは単なる善人ではなく、私たちと一つになった神ご自身であるという確信を表明しました。イエスを通して、神は、命とは何か、人間であることの意味を理解しておられると彼女は考えました。この信仰が、赦された罪人として、そして女王として、イエスに信頼を置く自信を与えてくれたと彼女は結論づけました。

「1972年に父が亡くなった時、私は自分の肩に負わされた重責を痛感しました。どこに助けを求めればいいのでしょうか？人間からの助けは、全くありませんでした。困窮した私は、神に頼り、イエスがこの地上に生きていた時になされた約束を信じ、熱烈な祈りを捧げました。すると突然、何かが起こり始めました。何か新しいものの一部になったような気がしたのです。正直に言うと、私は、神の存在を理論上、慣習や慣習としてしか信じていなかったのが、驚きました。まるで揺り起こされたかのようにした。私の心の世界に革命が起こり、神は、私にとって現実のものとなったのです。」

このように、女王の考察と私自身の経験は共鳴し合います。信仰は、伝統や理論から、生き生きとした個人的な現実へと変容していくのです。YMIクラブのメンバーの皆さまも、太陽や雨のように自然に流れる信仰生活を受け入れることで、同じような平安と充実感を見いだせることを願っています。